

## 執筆者紹介

(担当章順)

陳 志敏 (第1章) 復旦大学国際関係・公共事務学院国際政治学部教授。主な研究領域は国際関係論、外交学、中国の外交政策、欧州連合 (EU) 研究等。ハーバード大学、クイーンズ大学、ダラム大学、ランド大学で客員研究員を兼任。最近の著書には『当代外交学』(北京大学出版社、2008年)がある。1998年に復旦大学より博士号取得。

蘇 浩 (第2章) 中国外交学院 (CFAU) 外交学部教授。専門は中国の外交政策、国際関係論 (アジア太平洋) 戦略論。大学院で国際関係論、安全保障論を教える傍ら、中国の外交政策の研究を進める。東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT) のメンバーとして、東アジア地域協力推進の重要性を中国国内で積極的に訴える。1999年にCFAUで博士号取得。

増田 雅之 (第3章) 防衛研究所研究部第6研究室教官。これまで上海大学客員研究員、中国海洋大学特別研究員を務める。2003年から現職。研究領域は中国の外交・安全保障政策、アジアの国際関係論、日中関係等。著作に *Reconceptualizing the Divide: Identity, Memory and Interests in Sino-Japanese Relations* (Cambridge Scholars Publishing, 2009) (共著) 等がある。

余 万里 (第4章) 北京大学国際関係学院助教授。研究領域は米国の政治・外交政策、米中関係、多国籍企業論。『人民日報』等の国内紙や『世界知識』等の学術誌に中国の外交政策や時事問題に関する論考を多数寄稿。米国のケッタリング基金で研究活動に従事した経験もある。2003年に中国社会科学院より博士号 (国際関係論) を取得。

恒川 潤 (第5章) 防衛研究所研究部上席研究官。1974年、日本貿易振興機構

(JETRO)に入り、東南アジアの経済発展について調査を行う。1998年、防衛研究所に主任研究官として入所。専門は開発経済、東南アジア問題。2004年から2007年まで、同研究所の年次報告『東アジア戦略概観』編集長および執筆者を務めた。

飯田 将史(第6章、序章) 防衛研究所研究部第6研究室主任研究官。1999年に防衛研究所に入り、現代中国に関する研究、教育、国際交流等に従事。研究領域は中国の東アジアにおける外交政策・安全保障政策。とりわけ日中関係、中国・ASEAN関係に強い関心を持つ。1996年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了、2005年スタンフォード大学東アジア研究専攻修士課程修了。

転換する中国  
— 台頭する大国の国際戦略 —  
飯田将史 編

ISBN: 978-4-939034-56-5

発行者 防衛省防衛研究所  
153-8648 東京都目黒区中目黒 2-2-1  
TEL: 03-5721-7005 (内線 6588)  
FAX: 03-3713-6149  
Email: [planning@nids.go.jp](mailto:planning@nids.go.jp)  
Website: <http://www.nids.go.jp>

本書で表明されている見解は、各執筆者個人のものであり、必ずしも各執筆者の所属機関や政府の見解を代表するものではありません。

Copyright © 2009 The National Institute for Defense Studies

本書の全部または一部について、形態や手段を問わず、複製、情報検索システムによる保管、転送を行う場合には出版者からの書面での許可が必要です。

編集協力・印刷：株式会社あをばぷりんと

+

+

+

防衛研究所（NIDS）は政策関連の戦略研究を行うことを任務とした、防衛省の政策研究機関です。NIDS では、幹部自衛官、防衛省職員、政府関係者を対象とした、国防大学レベルの教育も実施しています。NIDS は国内最大規模の戦史研究機関でもあります。